令和５・６年度

福井市男女共同参画推進員

活動報告書

～防災における女性の参画推進～

男女共同参画都市福井宣言

わたしたちは自立・平等・平和を基本理念として　男女があらゆる分野にともに参画し
ともに築く　やさしさと活力ある福井をめざし　ここに「男女共同参画都市」を宣言します

１

お互いの立場を思いやり　みんなで家事や育児や介護を
協力しあう「おもいやり家庭」をつくります

２

自らが意識を変え世代を超えたふれあいに努め
ともに参画し個性を生かしあう「ふれあい地域」をつくります

３

家庭での男女共生をもとに能力や機会を生かし
対等なパートナーシップで励みあう「きょうせい職場」をつくります

平成１０年３月１６日制定

平成10年に北陸初、全国14番目に「男女共同参画都市宣言」をしました。
この宣言文は、平成6年から9年にかけて開催した「男女でつくる地域推進フォーラム」に参加した、市民4千人の話し合いから生まれたものです。
家庭・地域・職場で、男女がともに参画することで、やさしさと活力ある福井を目指す内容となっています。

福井市男女共同参画推進員とは･･･

男女共同参画社会の実現には、市民の皆様に男女共同参画への意識を持っていただくことが最も重要になります。そのためには、生活に最も身近な地域で、男女共同参画を推進・実践する場を設けることが必要です。

福井市では、公民館区から推薦いただいた方、市が直接指名した方を「男女共同参画推進員」として委嘱し、啓発活動を展開していただくことで、市全体の男女共同参画意識の向上を図る「男女共同参画推進地域事業」を実施しています。

また、リーダー推進員は、市や各地区の推進員との連携のもと、市内全域にわたる広域的な意識啓発事業を行います。

設置根拠は？	「男女共同参画社会をめざす福井市条例」 第22条
誰がなるの？	･各公民館区（49地区）から推薦された方 ･市が直接指名した方
任期は？	2年間 令和5年4月1日～令和7年3月31日

男女共同参画推進員の活動内容

男女共同参画社会の実現を目指すにあたり、課題となるテーマを市が選定します。

そのテーマに基づいて、リーダー推進員は市内全域での啓発活動を企画・実施し、各地区の推進員はその活動への参加･協力や、地区住民に対する啓発活動を行います。

市、リーダー推進員、各地区の推進員、各地区における関係団体が連携・協力することで、市全体の男女共同参画意識の醸成を図っていきます。

リーダー推進員

〇市内全域にて活動テーマに沿った啓発事業を企画･実施
- ･男女共同参画情報 WEB マガジン「アイアム」での発信
- ･必要に応じて、地区事業への参加･協力

連携協働

市

- ･委嘱式、研修会
- ･中間報告、成果報告
- ･活動内容の周知

連携協力

連携協力

地区推進員

〇市や地区行事への参画
- ･市や地区の防災訓練等に参画、地区住民に参加呼びかけ
- ･地域活動への女性参画の呼びかけ

〇リーダー推進員による啓発事業への協力
- ･研修会の参加、啓発チラシ･アンケートの配布等

地区

- ･地域団体
- ･公民館
- ･住民

連携協力

令和5･6年度　男女共同参画推進員活動の概要

＜任期２年間の活動＞

令和５･６年度 活動テーマ　：　防災における女性の参画推進

【１年目の活動】
- 地域住民へのアンケート調査の実施
- 活動テーマ関連研修会の開催
- 中間報告会の開催

【２年目の活動】
- 学生との防災ワークショップの開催
- 各地区の自主防災組織の取組事例視察
- 成果発表会の開催

＜２年間のスケジュール＞

	月日	リーダー推進員	各地区の推進員
１年目（令和５年度）	５月20日	●委嘱式・基礎研修会 ・委嘱状交付　・地域事業の目的、概要説明　・推進員の役割と活動内容	
		●リーダー推進員会議 ・事業内容の企画検討	●各地区での啓発活動 ・防災訓練への参加呼びかけ
	８月５日	●活動テーマ関連研修会の開催	
	10～11月	●「防災における女性の参画に関するアンケート調査」の実施	
	３月23日	●中間報告会の開催 ・アンケート調査の分析、報告　・2年目の活動に向けて	
２年目（令和６年度）	６月～	●リーダー推進員会議 ・事業内容の企画検討	●各地区での啓発活動 ・防災訓練への参加呼びかけ
	８月31日	●学生との防災ワークショップの開催	
	11月	●各地区の自主防災組織視察	●各地区での啓発活動 ・アンコンシャスバイアス川柳への応募呼びかけ
	２月１日	●成果発表会の開催 ・活動発表　・特別講演	
	３月	●活動報告書の作成・配布 ・2年間の活動報告	

男女共同参画推進員の主な活動内容

1　防災における女性の参画に関するアンケート調査の実施（令和５年度）

男女共同参画推進員の令和５・６年度の活動テーマは、近年、特に女性の参画が求められている防災分野に焦点を当て、「防災における女性の参画推進」としました。

推進員の令和５年度の活動として、防災に対する地域住民の意識や考え、地域における実態等を把握し、今後、防災における女性の参画推進に向けた意識啓発活動に反映させることを目的に地域住民へのアンケート調査を実施しました。

＜調査対象＞　　市内全域 10 代以上の男女 1,260 人

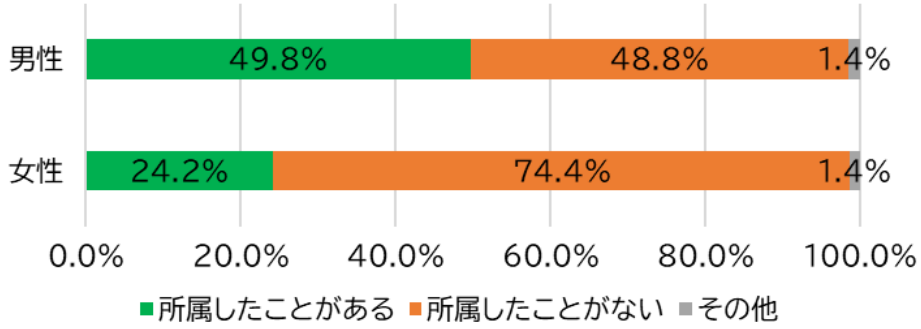
＜調 査 員＞　　男女共同参画推進員　54 名

＜調査期間＞　　令和５年 10 月～11 月

＜回収結果＞　　1,109 人（回答率 88.0%）

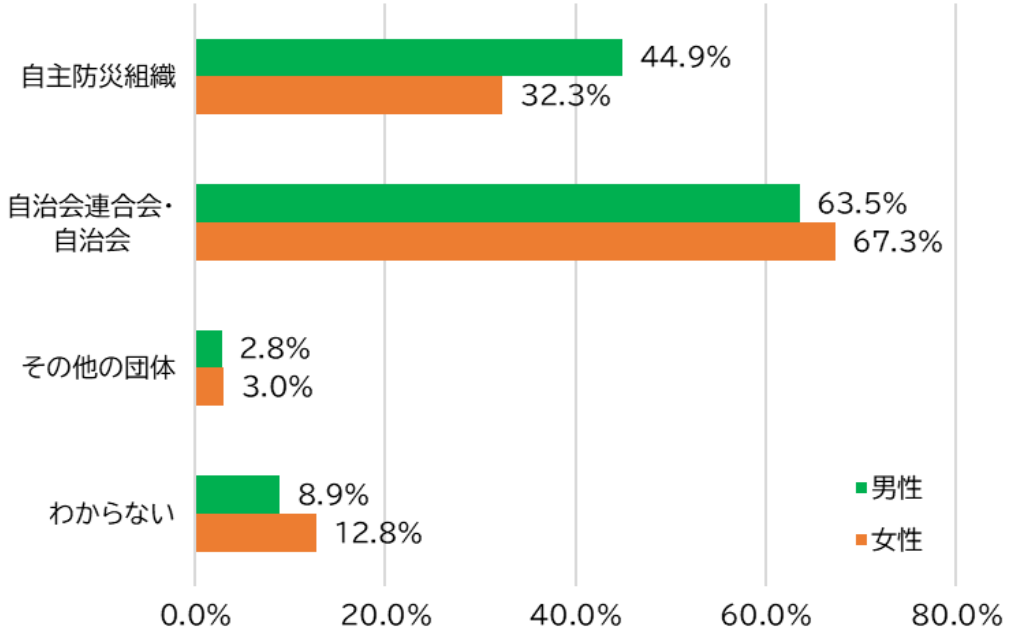
Q．お住まいの地区や自治会などで防災に関する団体に所属したことはありますか。（１つ）

・男性は「所属したことがある」と「所属したことがない」が大体同じであるのに対し、女性は７割以上が「所属したことがない」と回答しています。



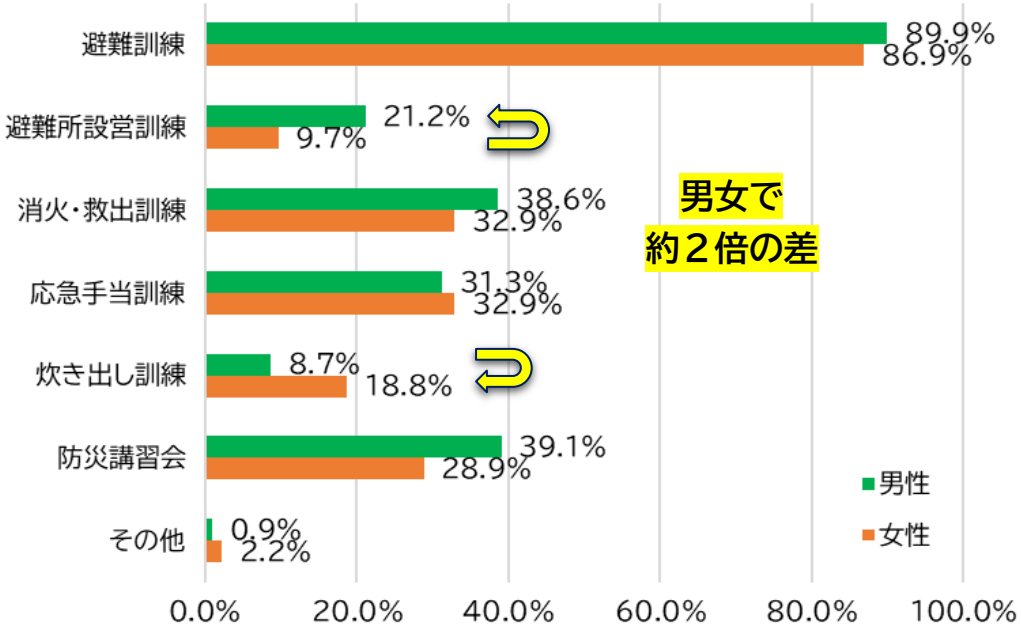
Q．お住まいの地区で災害が起きたとき、避難所運営の中心となる団体はどこだと思いますか。
（あてはまるものすべてに○）

・男女ともに「自治会連合会・自治会」という回答が最も多く、次いで、「自主防災組織」の回答が多くなっています。



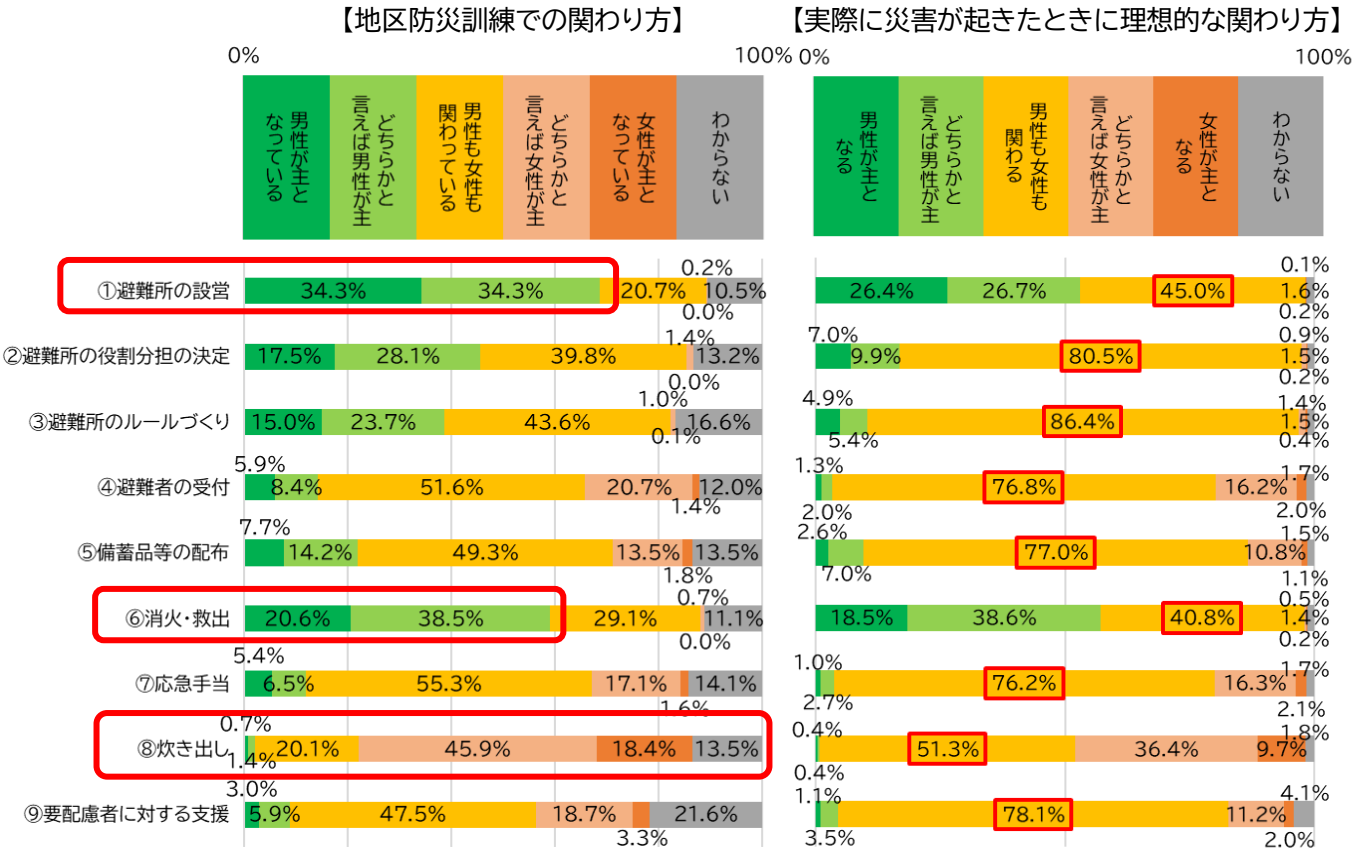
Q．あなたが参加したことのある訓練や講習会は何ですか。
（あてはまるものすべてに○）

・「避難訓練」は男女ともに約９割近くが参加しており、次いで、「消火・救出訓練」「応急手当訓練」「防火講習会」の回答が多くなっています。
・「避難所設営訓練」「炊き出し訓練」との回答は、「消火・救出訓練」「応急手当訓練」「防災講習会」の半分程度で、男女の選択率には約２倍の差がある状況です。



Q．地区防災訓練や実際に災害が起きたときに理想的な男性と女性の関わり方について
（近いと思うものを１つ選択）

・「地区防災訓練」では、男性は「避難所の設営」「消火・救出」、女性は「炊き出し訓練」で主に関わっているとの回答が多く、急を要する初期の現場活動は男性、長期的な後方支援活動は女性という意識の偏りが見て取れる状況です。
・「実際に災害が起きたときに理想的だと思う関わり方」では、全ての項目で「男性も女性も関わる」との回答が増えており、女性の防災への参画意識の高まりを感じさせる結果となりました。



《今回のアンケートからわかったこと》

・女性の防災への参画意識は高いですが、参画の実態は低い状況です。

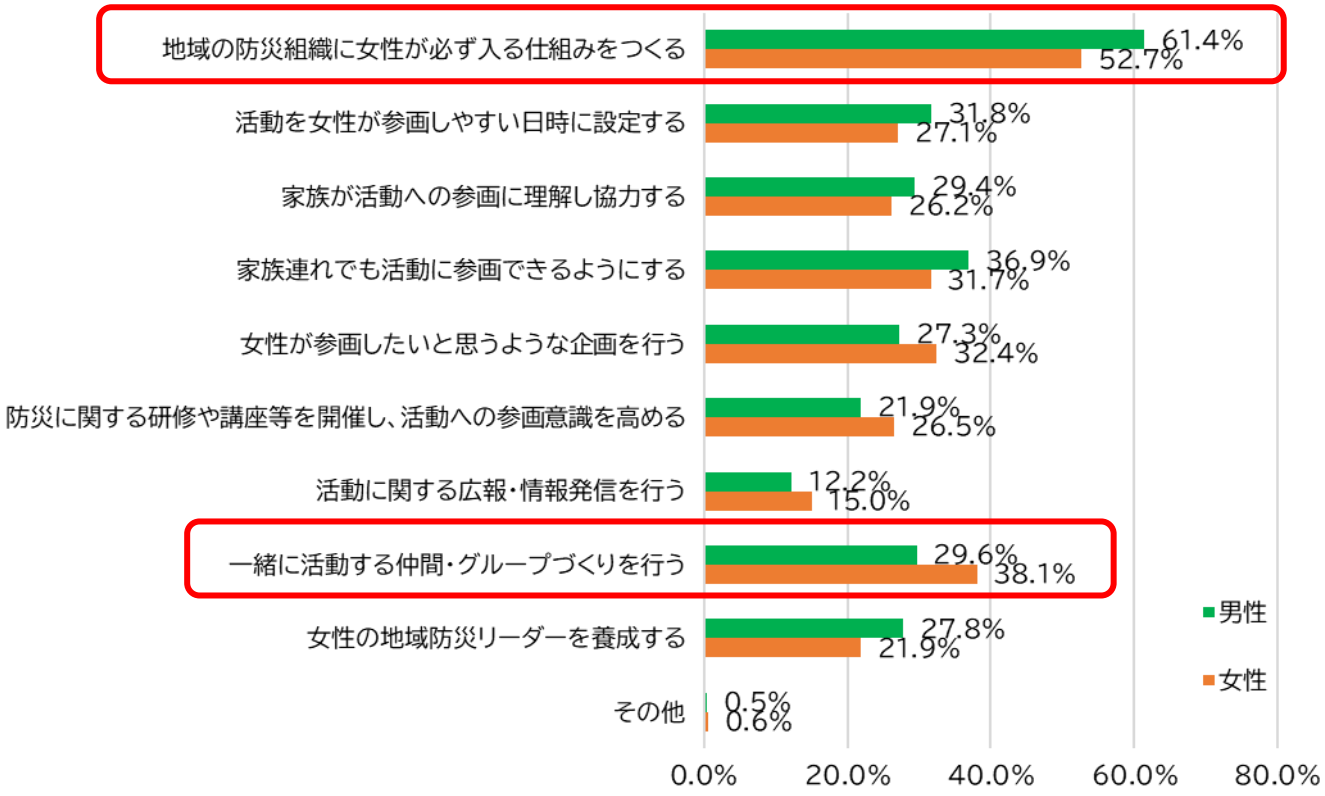
・実際の訓練では、避難所の設営やルールづくりは男性が主、炊き出し・受付は女性が主となるなど、性別によって役割が固定的になっています。

・その理由の一つとして、男性主体の消防団が消火や救助、女性主体の婦人会が炊き出しなど、これまで培ってきた知識やノウハウがあることで、知らず知らずのうちに、性別ですることとしないことの判断をしているのではないかと考えられます。

・無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）により、性別で役割を判断している可能性があります。

Q．地域防災活動へ女性が参画するために必要だと思うことを選んでください。
（３つ選択）

・男女ともに「地域の防災組織に女性が必ず入る仕組みをつくる」の回答が約５割以上と最も多く、次いで、女性の回答では「一緒に活動する仲間・グループづくりを行う」が多く、約４割になっています。



この結果から、無意識に性別によって役割を分担、棲み分けされている中で、女性の参画を進めるためには、「女性が必ず参画する仕組みをつくる」「一緒に活動する仲間・グループをつくる」ことが特に必要なのではないかと考えました。

また、そういった仕組みづくりを実際にどのようにするのかについて、令和６年度の活動として、防災ワークショップの開催や、各地区の自主防災組織で取り組まれている事例を視察することとしました。

2 「男女共同参画×学生」防災ワークショップの開催（令和６年度）

令和６年度の男女共同参画推進員の活動として、地域防災活動への女性の参画を進めるために「防災活動に女性が参画する仕組みづくり」をどうしていくとよいか、アイディアを出すための防災ワークショップを福井工業高等専門学校のご協力を得て開催しました。

防災ワークショップでは、３つのグループテーマを設定し、７つのグループごとにアイディアを出し合い、出されたアイディアについて具体的な内容を考え、グループごとに発表を行いました。

＜日時・会場＞　令和６年８月31日（土）　13：30～15：45
福井県生活学習館（ユー・アイふくい）　学習室101

＜メインテーマ＞　「地域防災活動への女性の参画を進めるには？」
～防災活動に関わる女性を増やす仕組みづくり～

＜ファシリテーター＞　福井工業高等専門学校 環境都市工学科 助教 芹川 由布子 氏

＜参 加 者＞　福井工業高等専門学校生　７人（男性　１人、女性　６人）
自主防災組織連絡協議会　５人（男性　３人、女性　２人）
男女共同参画推進員　36人（男性16人、女性20人）
計 48人（男性20人、女性28人）

＜グループテーマ＞（７グループ）
①女性が参加したいと思えるような防災の企画
②家族連れで防災活動に参加するための工夫
③防災に女性参画を進めていくための情報発信手段・内容

防災ワークショップで出たアイディア・内容

防災ワークショップにて、各グループから発表されたものや各グループ内で出されたアイディア・内容を取組ごとに整理して、まとめたものを紹介します。

（１）女性の参加を促す取組

アイディア①
「訓練等にあわせて参加したくなるような楽しいイベント内容を企画する」

《具体的な内容例》
・電気のない生活の不便さを体験する１日停電体験
・キャンプ形式の炊き出しやお泊り体験会
・炊き出しのレシピを教える炊き出し体験会（参加無料、食材は持ち寄る）
・非常食の試食や非常食を使った料理体験会
・カイロプラクティックを受けながら防災について話し合う
・イケメンに会える

アイディア②
「子どもが行きたいと思えて家族で楽しめる企画から家族連れの参加を促す」

《具体的な内容例》
・子ども自身に「行きたい、楽しそう」と思える企画を考えてもらう
・ＰＴＡや子ども会の行事に防災を結びつけることで、親の防災意識を高める
・いつ災害が発生するかわからないので、時間帯別に避難場所を決める機会をつくる
・地区のまつりなどのイベントで、防災に関するブースを設ける
・防災備品グッズの備蓄状況や服用している薬の情報を家族で共有する
・子育て世代が準備するといい防災グッズやコツを教えるミニ講座

アイディア③　「訓練等に参加する人への参加特典を用意する」

《具体的な内容例》
・茶菓子（スイーツ）を用意して談話時間を設ける
・スタンプカードやポイントカードをつくる
・子どもが喜ぶお土産（おやつ）や大人用粗品（ごみ袋）を配布する
・サービス券やお金・電子マネーがもらえる

アイディア④　「学校や公民館と連携した訓練等を行う」

《具体的な内容例》
・避難所である学校で、調理室での炊き出し訓練や、体育館で一泊体験をする
・子どもの町探検やウォークラリーを利用したハザードマップづくり
・部活や公民館のサークル単位で参加できる企画をする

アイディア⑤　「訓練等で女性や子育て世代に配慮した取組をする」

《具体的な内容例》
・腕力や体力に頼らない訓練をする（バケツリレー、消火器訓練など）
・オンラインツールを利用した意見交換会・講座等を企画する
・託児所や子どもの遊び場（犬や猫と遊ぶなど）を準備する
・地区の女性同士が仲良くして連携を深めてグループをつくる

（２）女性への情報発信手段・内容

アイディア①　「様々な世代に届けるため、多様な情報発信方法をとる」

《具体的な内容例》
・回覧板、メール、SNS などアナログからデジタルまで様々な情報発信は必要
・スマホが使えないときの連絡手段を家族や町内で決めておく
・ラジオの使い方を学ぶなど、アナログな手段を使えるようにする
・ごみステーションに掲示して発信する
・保育園・学校、敬老会、職場などの小さなコミュニティーで発信する
・女性有名人や発信力のあるインフルエンサーに発信してもらう
・予防接種のお知らせを利用して発信する

アイディア②　「気軽にできる・見られるように情報発信の内容を工夫する」

《具体的な内容例》
・電気等がなくても生活する方法、暮らしの知恵的なことを発信する
・女性目線での被災経験を発信する

（３）その他

アイディア①　　「各地区の垣根を越えて情報交換や連携を行う」

《具体的な内容例》
・ほかの地区と連携を図る機会を設け、他地区を参考に、他地区の取組を取り入れる

《防災ワークショップまとめ》
・災害は非日常的なものですが、「家族で楽しく防災」という考え方は、参加者だけではなく、関わる方を増やす点でとても大切だと感じました。

・情報発信は、受け手側が「受け取りやすい」と感じた方法で受信するため、発信側は、発信方法を限定せず、様々な手段で発信することが今後も重要です。

3 市内各地区の自主防災組織の取組事例視察（令和６年度）

防災ワークショップでは、様々なアイディア・内容が出されましたが、実際に自主防災組織では「防災活動に関わる女性をどのように増やしているのか」市内各地区の取組事例を視察しました。

＜視察先＞　日之出地区　自主防災組織連絡協議会　（令和６年 11 月 24 日）

河合地区　　自主防災組織連絡協議会　（令和６年 11 月 26 日）

麻生津地区　防災連絡協議会　（令和６年 11 月 29 日）

＜視察者＞　男女共同参画推進員（リーダー推進員）

＜対応者＞　各地区の自主防災組織連絡協議会の役員・事務局の方々

日之出地区自主防災組織連絡協議会の取組事例

日之出地区では、地区コミュニティーのキーワードとして「子どもと防災」を掲げており、地区の自治会連合会の会長が自主防災組織連絡協議会の会長を兼務しています。

そのため、「子どもを地域で守らなければいけない」と、小学校、地区全体が一体となり、平成 29 年から「ウィークデー防災訓練」を毎年継続して実施しています。

（１）ウィークデー防災訓練

ウィークデー防災訓練は、地区で大人が一番少なくなる平日の日中、特に子どもだけになる小学生児童の下校途中に、大地震が発生したことを想定した訓練です。

このような訓練は、全国的にも前例がなく、下校途中の学校から離れた場所で大地震の際、「子どもたちは自分の身を守れるのか」「避難場所まで辿り着けるか」「地区に残っている大人たちでどうやって子どもを守るのか」が課題でしたが、「子どもを守りたい」という思いが地区を一つにし、学校をはじめ様々な関係団体の協力や有識者のアドバイスを受けて、訓練を実施することができたそうです。

＜事前研修＞　　集団下校の班長研修会

＜訓練当日＞　　①下校前のシェイクアウト訓練
②下校途中で地震発生シェイクアウト
③一時避難所へ班長とともに避難
④班長が一時避難所で安否確認

《ポイント》

・訓練の運営には、小学校をはじめ、ＰＴＡ、公民館、自治会連合会、社会福祉協議会などの協力を得ており、運営スタッフの半数が女性でした。

・コロナ禍でも小学校からの後押しもあって「訓練を８年間継続してきた。今後も少しずつ改良を重ねながら継続していきたい」と意欲的でした。

（２）自主防災組織の体制

日之出地区自主防災組織連絡協議会では、協力委員として、社会福祉協議会、スポーツ協会、女性主体のさくら防火クラブが参画しており、平成 25 年の福井市総合防災訓練で日之出地区が推進地区に指定されたことがきっかけで、自治会連合会、社会福祉協議会、スポーツ協会などの地区の各種団体が一致協力する良い関係を築かれていました。

＜組織体制＞

会長・副会長・事務局

- 常任理事　…　７ブロックから１名選任
- 理事　　…　７ブロックのブロック長
- 協力委員　…　社会福祉協議会、スポーツ協会、さくら防火クラブ(女性)
- 監事・顧問

《ポイント》

・さくら防火クラブは、自主防災組織の役員ではなくサポーターとして位置づけされ、ゆるくサポートしてもらう通称「ゆるさぽ」として、メンバー全員が活動に参加し、その都度もらう意見は自由に発言かつ尊重されていました。

・自主防災組織では、夏祭りなどの地区行事にも参加し、「楽しめる防災イベント」を毎回実施しており、「メンバー自らも楽しみながら住民と交流することを心掛けている」と話されたことが印象的でした。

河合地区自主防災組織連絡協議会の取組事例

河合地区では、コロナ禍によって「地区行事や会議の中止が続き、情報が届きにくい状況で災害が発生したら大変なことになる」「SNS で繋がれば住民に大切な情報が届くのでは」と気づいたそうです。

はじめは、地区行事の音楽コンサートとコラボし、音楽の生配信に合わせて LINE での情報伝達訓練から実施されました。

LINE アカウント名を「河合公民館※」とし、現在は、災害時連絡に限らず、地区行事のお知らせや不審者等の防犯情報、豪雪時のごみ収集車の出動状況等の自治会連合会からの連絡など、様々なコミュニティー情報を配信していました。

※令和６年から「かわいニコニコ王国まちづくり協議会」広報部がアカウントを運用

（１）防災訓練（避難訓練＆情報配信訓練）

毎年６月に実施している防災訓練では、令和６年の避難訓練は大雨で中止となりましたが、LINE 配信と無線通信による情報配信訓練を実施され、LINE の緊急連絡配信は、防災サイレンと同時に、地震発生と避難を呼びかけたそうです。

＜LINE 登録者＞　約 1,000 人

＜訓練当日＞
①LINE 配信訓練と無線通信訓練
②一時避難所への避難訓練
③指定避難所で避難者カード記入
④各種講習会を受講
⑤炊き出し配給訓練

《ポイント》

・ＬＩＮＥ登録者は約 1,000 人で、河合地区全世帯数の３／４にあたり、登録者の約６割が女性です。

・配信訓練以外にも、夏祭り等の地区行事で、かき氷等の無料クーポンをＬＩＮＥ登録者にプレゼントするなど、登録者を増やす取組を行っていました。

（２）自主防災組織の体制

河合地区自主防災組織連絡協議会は、平成 23 年の東日本大震災をきっかけとして、各自治会から自治会長とは別に理事を選任することで、自治会連合会から独立して現在の体制になりました。

＜組織体制＞

会長・副会長・事務局

- 理事
  - ７自治会＋つくし野ブロックから１名選任
  - 12 自治会から女性を１名選任
  - 交通安全協会、社会福祉協議会、民生児童委員、JA 女性部
- 役員（12 自治会の自治会長）
- 会計・監事・顧問・参与

《ポイント》

・女性理事として、各自治会から女性を１名選任し、女性理事１２名は女性防火クラブを兼任していました。

・防災訓練では、祭りでのふるまいなどでノウハウがあるＪＡ女性部と女性理事が炊き出し訓練を運営するおかげで、「おにぎりはラップではなくポリ袋へ」「みそ汁は紙コップへ」など、災害時を想定したアイディアが生まれるそうです。

麻生津地区防災連絡協議会の取組事例

麻生津地区では、杉の木台団地や県営住宅など地区全世帯（約 2,800 世帯）の約３割が「フクビ化学工業株式会社」の近くに居住しており、一時避難所が公園一か所しかない状況でした。

会社を挙げて防災に力を入れているフクビ化学工業に、当時の自治会連合会長が相談に伺ったところ、平成 31 年に近隣の 11 自治会とフクビ化学工業で「防災連携協定」を締結することができたそうです。

連携協定には、災害時には「社屋や敷地を避難場所として開放」することや「社員用の備蓄品を可能な範囲で提供」することなどが盛り込まれ、協定以降現在までフクビ化学工業と地区住民で合同防災訓練を毎年実施していました。

（１）フクビ化学工業との合同防災訓練

合同防災訓練は、平日に近隣自治会住民とフクビ化学工業全社員総出で、毎年５月に実施しており、令和６年は体験型の訓練を実施し、約 400 人が参加したそうです。

＜訓練当日＞

①避難訓練（住民：敷地内へ入構開始）
②避難者の安否確認・報告
③体験型訓練（起震車地震体験、煙脱出体験、AED 訓練）
④消火器での初期消火訓練

＜訓練風景＞

※出典：フクビ化学工業㈱ホームページより

（２）青葉台防災会（単位自治会）の取組

麻生津地区で杉の木台団地に次いで世帯数が多い青葉台団地の単位自治会は、約 250 世帯あり、４ブロック 20 班で構成されています。

青葉台防災会は、防災会長と自治会長は別の方ですが、自治会役員と各班の班長が防災会を兼任しており、現在では防災会役員会を毎月１回開催しています。

《ポイント》
・自治会の班長には毎年２割程度は女性がおられ、令和６年は班長２０名中５名が女性で、副会長にも１名女性が入っていました。

・防災会役員会では、消火栓ボックス内への消火器設置の決定や「防災には住民同士のつながりとコミュニケーションが大切」という目的で、コロナ禍以降中止していた夏まつりを再開させていました。

（３）自主防災組織の体制

麻生津地区防災連絡協議会は、地区内の各種団体の協力のもと、それぞれ担当役員をあらかじめ配置し、災害対応の体制を整えています。

＜組織体制＞

会長
- 役員（災害対応指揮）…（会長）、消防分団、事務局
  （情報収集）　… 公民館、防犯支援隊、交番連絡協議会
  （避難所運営）　… 社会福祉協議会、女性クラブ、女性防火クラブ
  （行政連絡調整）… 交通安全協会、交番指導員
- 理事 … ７ブロックのブロック理事として防災会長から１名選任
  - 防災会長 … 35 自治会から１名

《ポイント》
・社会福祉協議会や女性クラブ（ＪＡ女性部・商工会女性部・日赤奉仕団で構成）女性防火クラブが避難所運営を担当役員として担っています。

・自主防災組織として「実地体験を伴う訓練が大切で、訓練を継続することが住民の防災意識の向上につながる」と話されたことが印象的でした。

・日頃から地区行事を通じて、住民や関係団体とコミュニケーションをとって、顔の見える関係を築いており、つながりを大切にされていると感じました。

男女共同参画推進員の２年間の活動のまとめ

1　男女共同参画推進員成果発表会（令和６年度）

男女共同参画推進員として、「防災における女性の参画推進」をテーマに掲げ、令和５・６年度の２年間活動してきました。その２年間の活動内容と成果をリーダー推進員が発表する成果発表会を開催しました。

＜日時・会場＞　令和７年２月１日（土）　13：30～15：45
福井県生活学習館（ユー・アイふくい）　学習室 101

＜開催内容＞　①成果発表会
②特別講演「ジェンダー平等の未来」
～誰もが輝ける社会を福井から目指して～
講師：福井大学 理事 末 信一朗 氏

＜参 加 者＞　自主防災組織連絡協議会 11 人、公民館等 24 人
男女共同参画推進員　39 人　計 74 人

2　２年間のまとめ　～地域防災活動に関わる女性を増やすためには～

（１）地区内の団体や企業等のつながりを深めること

地域防災活動に関わる女性を増やすためには、「地区内の団体や企業等とのつながりを深めること」が重要です。

団体やグループ、企業等と連携・協働した訓練や活動を実施し、それを継続することで、コミュニケーションが図られ、つながりが生まれるものと考えます。

また、自主防災組織に参画してもらうには、初めから役員になってもらうのではなく、「まずは協力委員やサポーターとして参画してもらう」など段階を踏むことも大切です。

《ポイント》

・団体やグループ、企業等が目指す目的や、その団体等に蓄積された経験やノウハウに沿った防災活動を行う。すでに団体等が行っている行事とコラボすることもｌつ。

・勧誘する際は、団体トップや特定の個人ではなく、仲間同士・グループみんなをいっしょに勧誘する。

（２）女性や子育て世代が防災活動に参加するきっかけをつくること

地域防災活動に関わる女性を増やすためには、「女性や子育て世代が防災活動に参加するきっかけをつくること」も重要です。

地区住民が参加する地区行事で楽しめる防災イベントやコーナーを設けることで、防災に興味をもってもらえるものと考えます。

また、具体的な防災活動について目に触れて知ってもらうために、「LINE などの SNS で防災情報を発信する」ことも有効です。

《ポイント》

・防災要素を加えたゲームやワークショップで出たアイディア等を参考にする。

・発信する際は、地域コミュニティーの情報もあわせて発信すると登録者増につながる。

3　おわりに

さらに防災における女性参画を推進するためには、「地区の行事や団体、自治会などに関わる女性や子育て世代を増やしていくこと」や「自治会活動＝世帯主、避難所運営･救助＝男性など、無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）に気づき、改善していくこと」にもあわせて取り組んでいく必要があります。

令和７年度の男女共同参画推進員の活動については、次の活動テーマを掲げ、地域の男女共同参画意識の醸成のため、意識啓発活動を実施していきます。

《活動テーマ》

「地域活動における女性の参画推進」
～無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）に気づこう～

【資料１】

福井市男女共同参画推進員名簿（任期：令和５年４月１日～令和７年３月３１日）

リーダー推進員

	氏　名	地区・団体
1	野路　晃	旭
2	内田　裕美子	麻生津
3	宮原　節子	足羽
4	吉田　義量	一乗
5	飛田　幸平	福井市防災士の会
6	竹内　友基子	市女性防火クラブ連絡協議会

地区推進員

	氏　名	地区
1	山﨑　利道	木田
2	生田　裕子	豊
3	羽野　尚文	足羽
4	堀川　美貴	湊
5	仙坊　真也	春山
6	吉田　和美	宝永
7	宇野　俊之	順化
8	石川　由美	松本
9	小林　孝史	日之出
10	法山　恭子	旭
11	髙嶋　広成	日新
12	佐々木　千鶴	清明
13	坪田　健治	東安居
14	三仙　祐二	社南
15	間　朋子	社北
16	上坂　鈴子	社西
17	高村　俊	麻生津
18	中村　浩美	和田
19	片矢　修一	円山
20	小林　馨	啓蒙
21	錠詰　幸恵	岡保
22	吉野　和宏	東藤島
23	須見　佐知子	西藤島
24	黒岡　喜久尾	中藤島
25	加藤　俊恵	河合
26	早津　みさ子	森田
27	河原　友子	明新
兼務	飛田　幸平	安居
28	竹内　慶一	一光
29	護城　美和子	殿下
30	山下　義隆	越廼
31	塚田　絹枝	清水西
32	小林　康雄	清水東
33	鷲田　範子	清水南
34	山塙　利文	清水北
35	長田　真由美	大安寺
36	新谷　信吉	国見
37	橋本　久代	鶉
38	山下　祐幸	棗
39	坂元　日冨美	鷹巣
40	松村　政宏	本郷
41	久津見　静枝	宮ノ下
42	村田　和男	酒生
43	伊與　文恵	一乗
44	熊谷　静夫	上文殊
45	橋詰　美代子	文殊
46	平鍋　忠幸	六条
47	林　裕美	東郷
48	山﨑　洋美	美山

【資料２】

令和５年度　福井市男女共同参画推進員

防災における女性の参画に関する
アンケート調査結果

1　調査の概要

（1）目的

福井市では、性別に関わりなく、その個性と能力を十分に発揮することができる「男女共同参画社会の実現」を目指し、「福井市第5次男女共同参画基本計画」に基づき、様々な施策に取り組んできました。特に地域においては、市が委嘱した各地区の男女共同参画推進員の皆様が中心となり、啓発活動を行うことで、地域の男女共同参画意識の醸成を図っています。

令和5年度・6年度の推進員の活動テーマは、近年、特に女性の参画が求められている防災分野に焦点を当て、『防災における女性の参画推進』としました。

今回、推進員の令和5年度の活動として、防災に対する市民の意識や考え、地域における実態等を把握し、今後、防災における女性参画の推進に向けた意識啓発活動に反映させることを目的に調査を実施しました。

（2）調査対象　　市内全域10代以上の男女 1,260 人

（3）調査員　　男女共同参画推進員 54 名

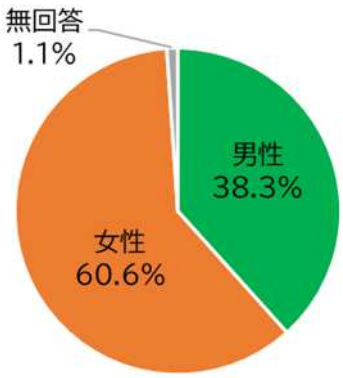
（4）調査期間　　令和 5 年 10 月～11 月

（5）調査票　　防災における女性の参画に関するアンケート調査

（6）回収結果　　回収数（率） 1,109 件（88.0%）

＜性別＞

性別	回答数
男性	425
女性	672
無回答	12
合計	1,109



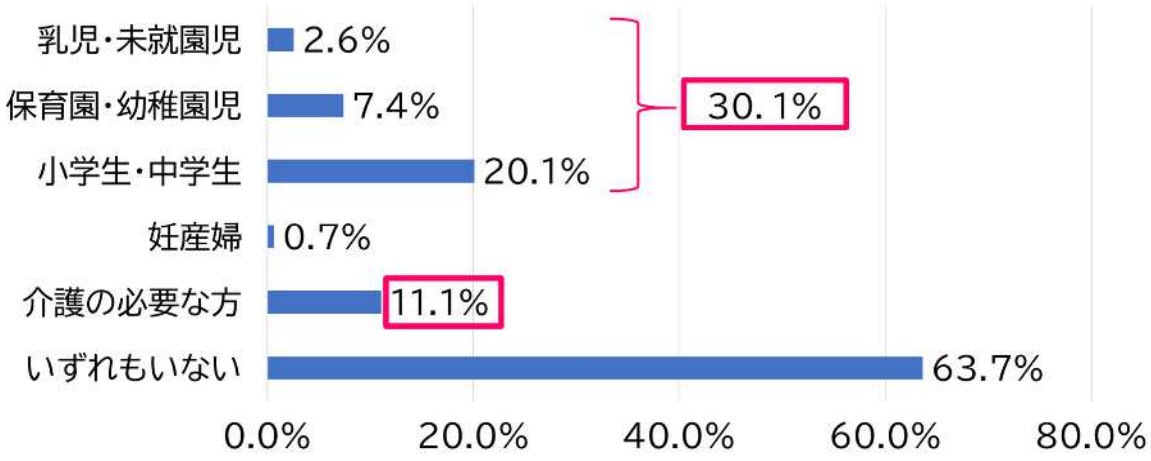
＜年代＞

年代別	男性	女性	無回答	合計
10 代	12	10	-	22
20 代	14	21	-	35
30 代	27	37	1	65
40 代	62	74	3	139
50 代	54	114	1	169
60 代	113	192	1	306
70 代以上	143	224	2	369
無回答	-	-	4	4
合計	425	672	8	1,109

2　調査結果

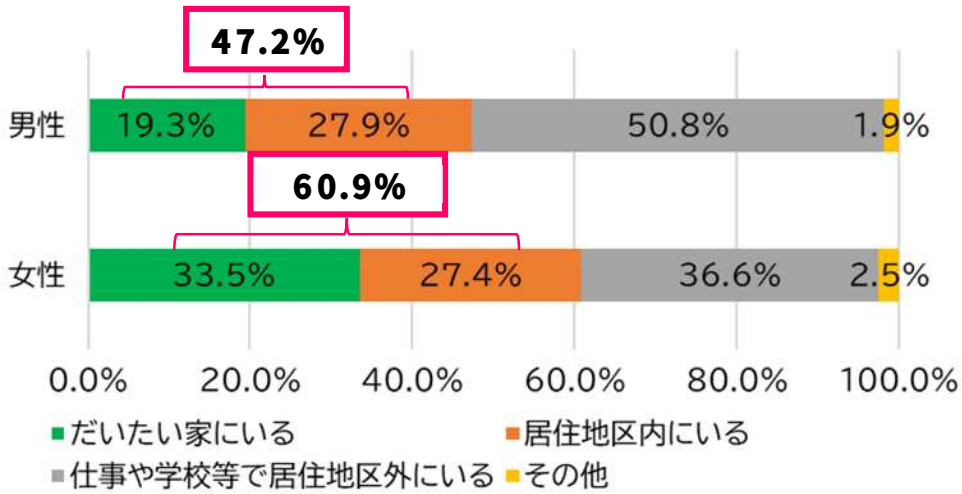
Q４．あなた自身を含め同居している家族の中に、次に該当する方はいますか。
（あてはまるものすべてに○）

こどもがいる世帯が約３割、介護の必要な方がいる世帯が約１割



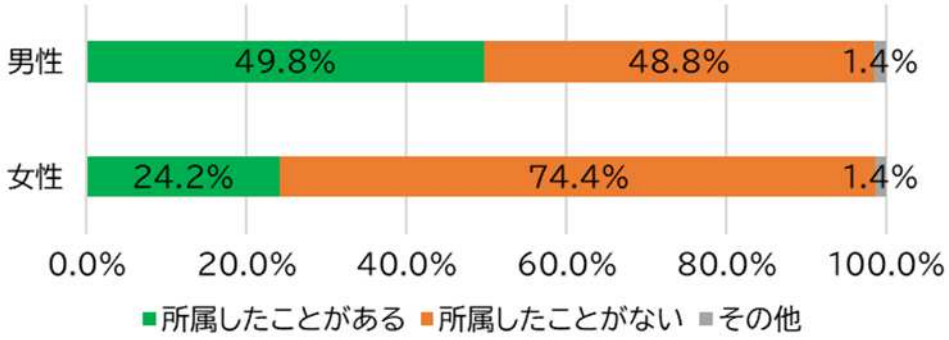
Q５．平日の日中はどこにいらっしゃいますか。（１つ）

男性の約５割、女性の約６割が、家または居住地区内にいる



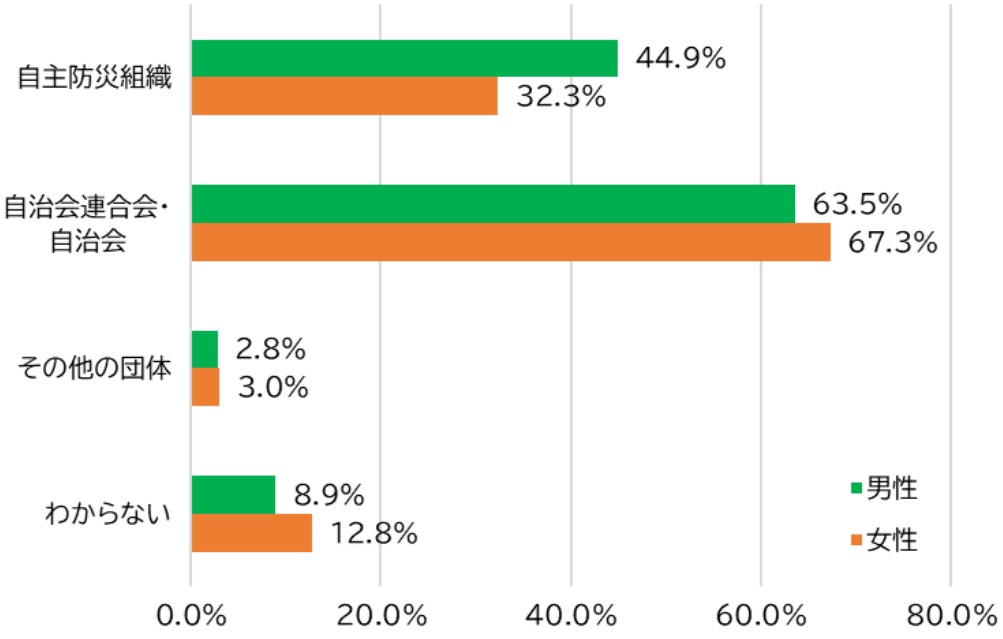
Q６．お住まいの地区や自治会などで防災に関する団体に所属したことはありますか。（１つ）

男性は所属したことがある方とない方が大体同じであるのに対し、女性は７割以上が、所属したことがない



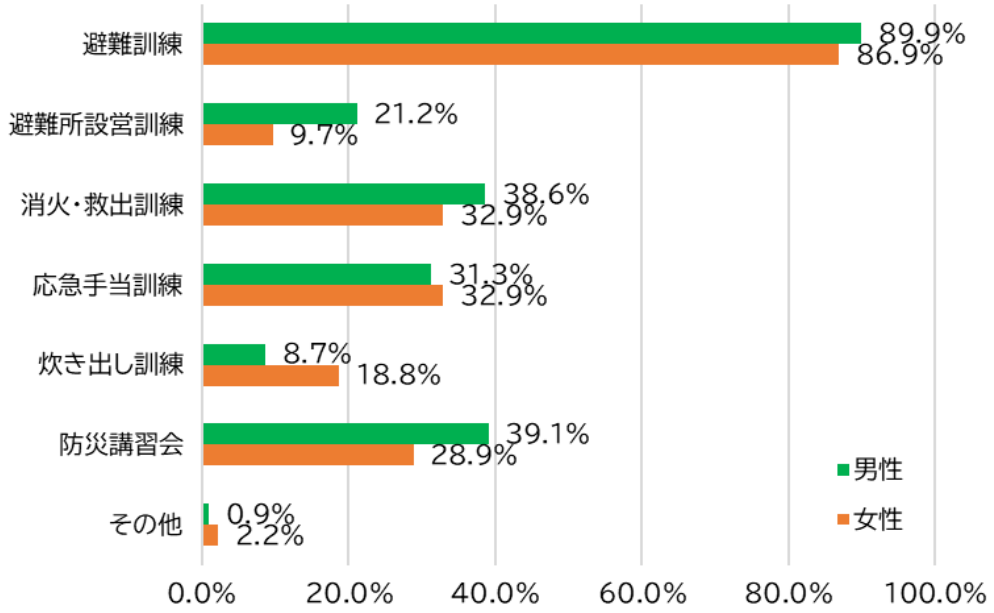
Q７．お住まいの地区で災害が起きたとき、避難所運営の中心となる団体はどこだと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

男女ともに自治会連合会・自治会という回答が最も多く、次いで自主防災組織



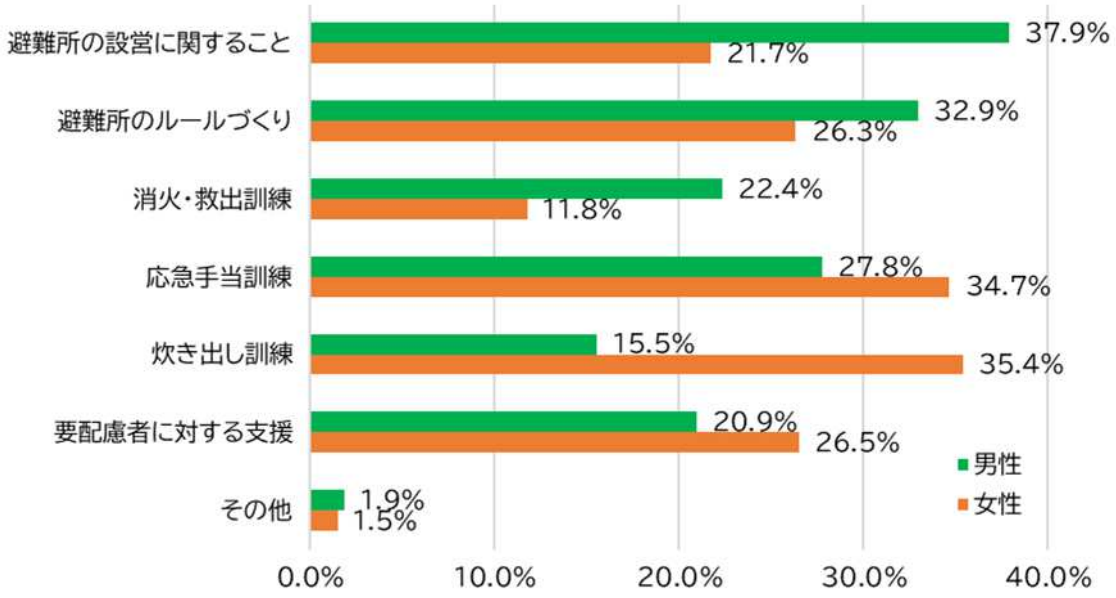
Q８．あなたが参加したことのある訓練や講習会は何ですか。
（あてはまるものすべてに○）

避難訓練や消火･救出訓練、応急手当訓練は男女とも大体同じ割合
避難所設営訓練は男性が女性の約２倍、炊き出し訓練は女性が男性の約２倍



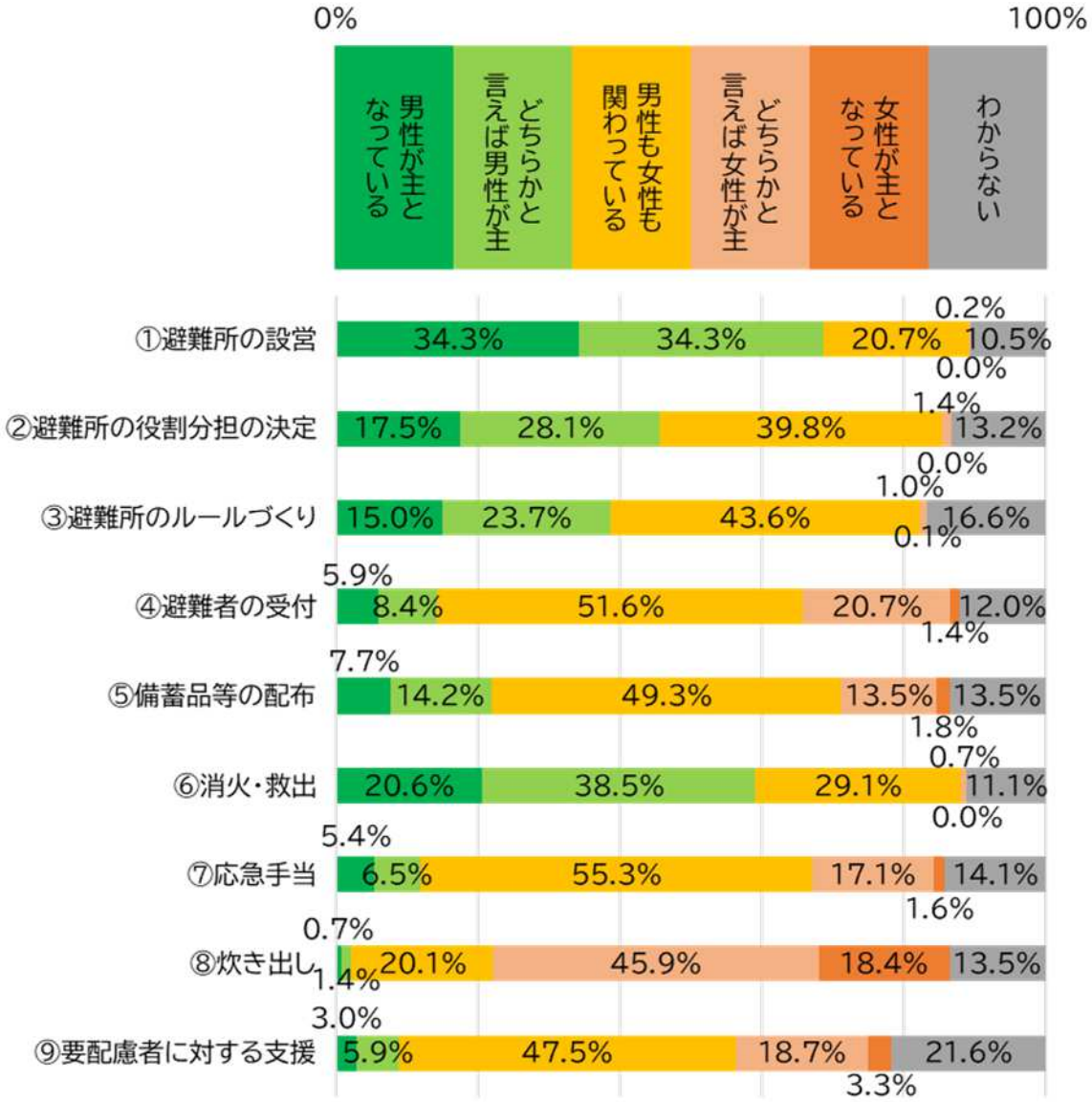
Q９．あなたが地区の防災で参画してみたいのはどのようなことですか。
（あてはまるものすべてに○）

Q８で避難所設営訓練に参加した女性は約１割だったが、避難所のルールづくりには約３割、避難所設営には約２割の女性が参加してみたいと回答



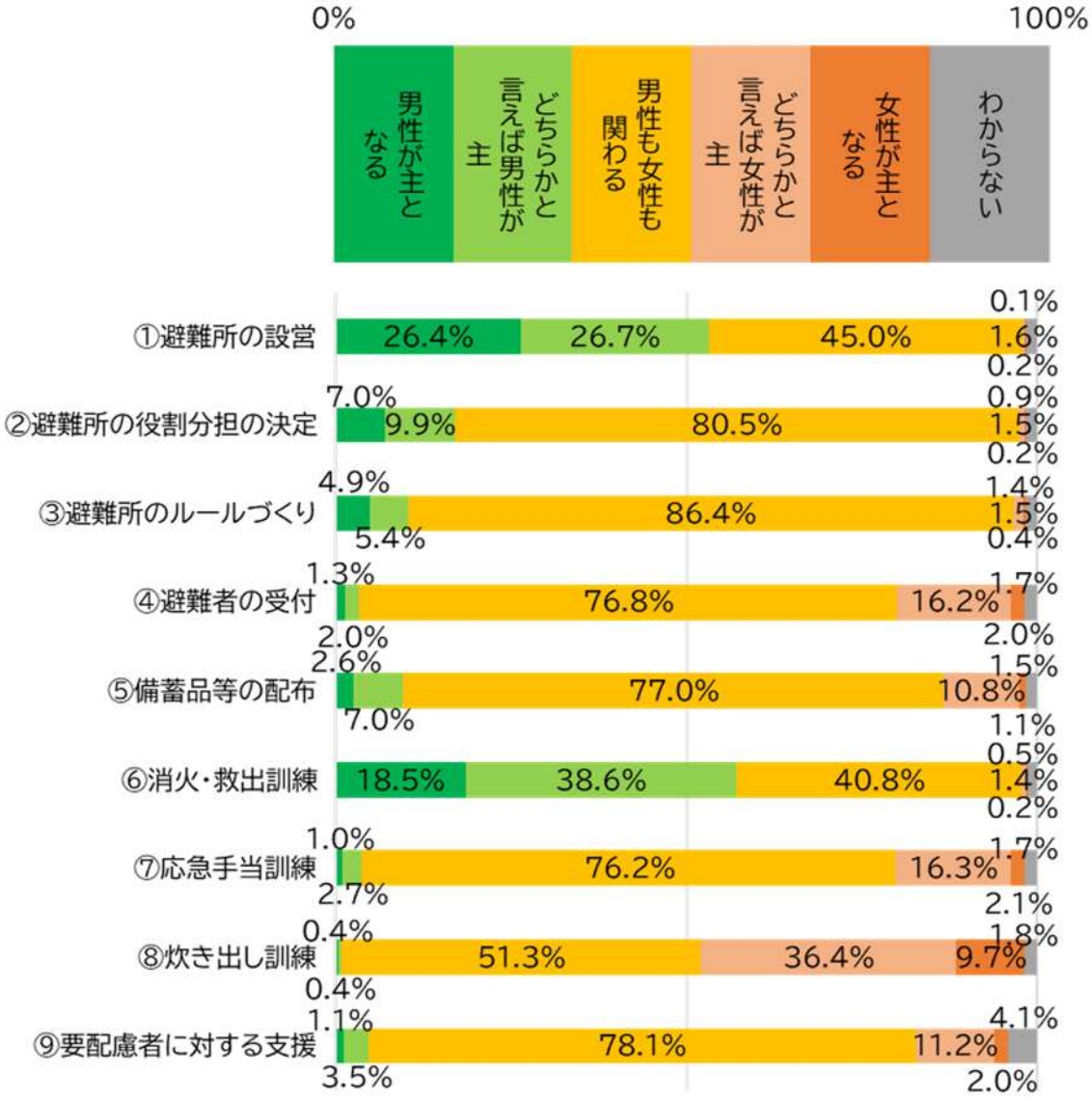
Q10．地区防災訓練での男性と女性の関わり方について　（近いと思うものを選択）

男性が主に関わっているとの回答が最も多かったものは避難所設営で約７割、次いで、消火･救出、避難所の役割分担決定、避難所のルールづくりの順に多い
女性が主に関わっているとの回答が最も多かったものは、炊き出し訓練



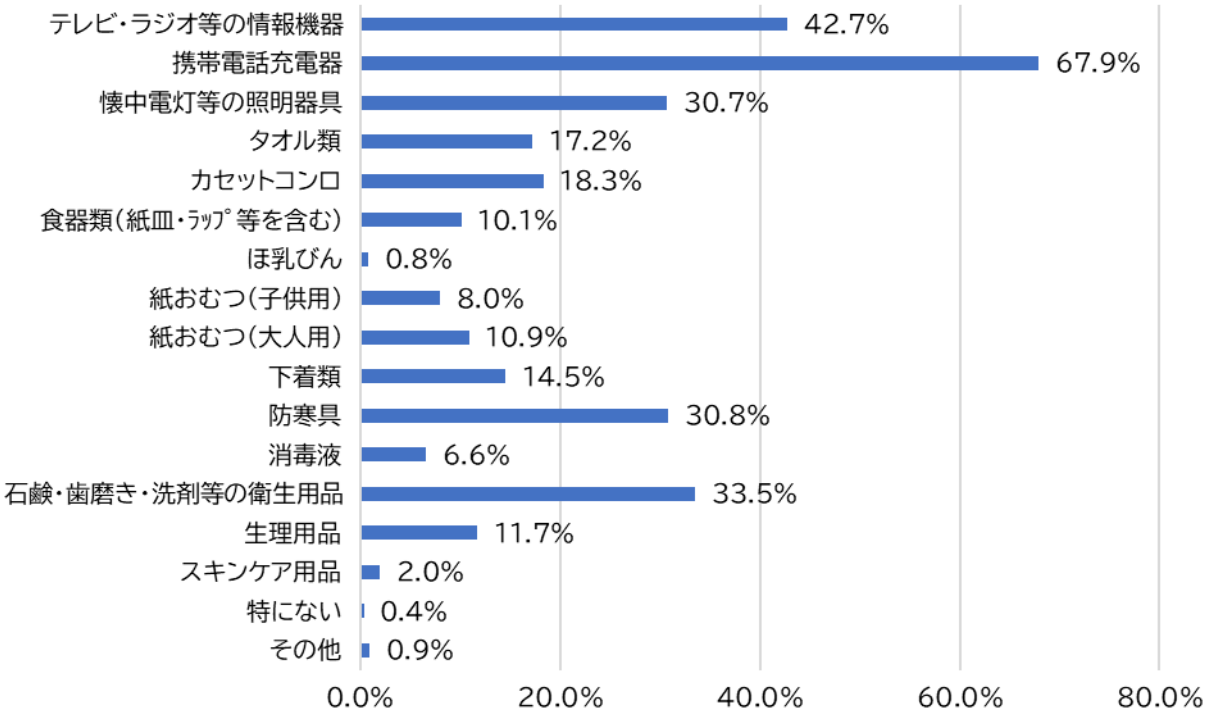
Q11．実際に災害が起きたときに理想的だと思う男性と女性の関わり方について（近いと思うものを選択）

男性が主となるとの回答は避難所の設営、消火･救出訓練で、女性が主となるとの回答は炊き出し訓練が多い
男性も女性も関わるとの回答は、Q10 に比べすべての項目で増加



Q12．あなたが避難所で１週間程度生活する場合、水、非常食、毛布、簡易トイレ以外で、特に必要だと思う「物資」を選んでください。　（３つ選択）

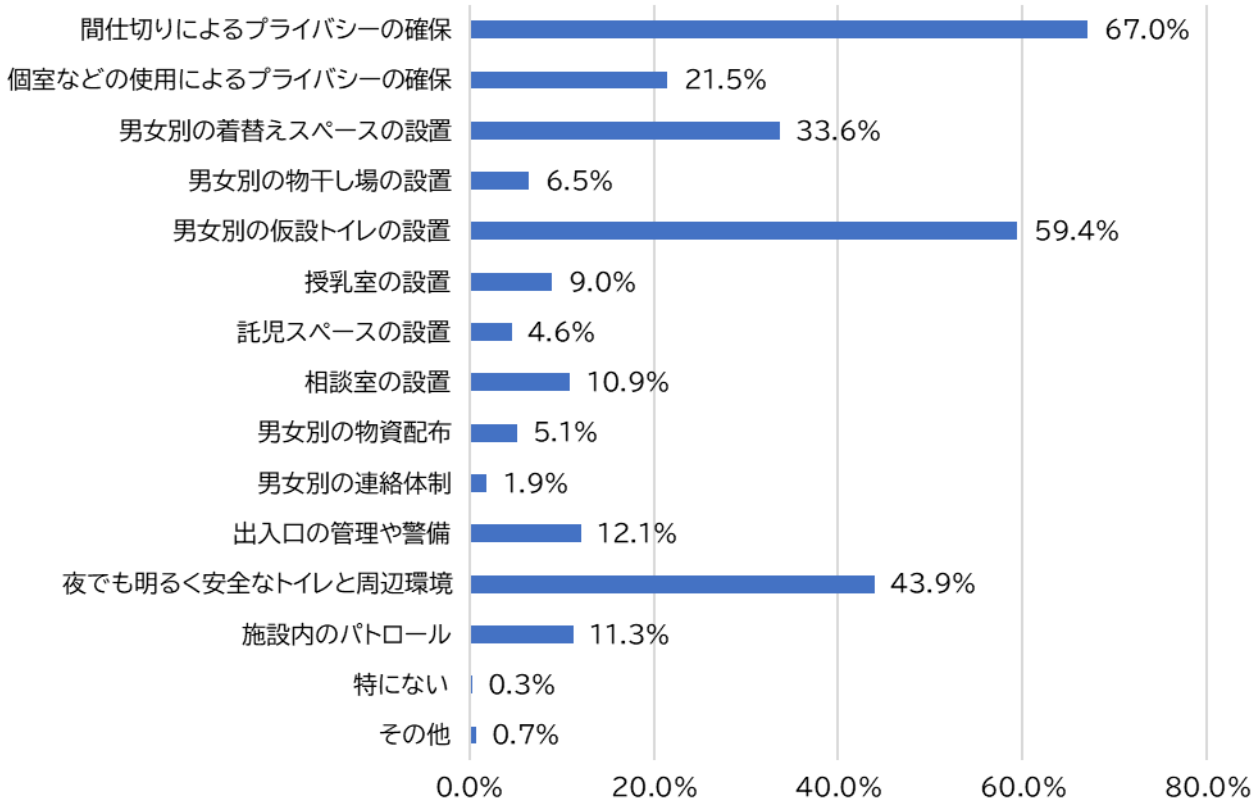
全体では携帯電話充電器が最も多く、次いで情報機器、衛生用品、防寒具、照明
女性の上位には生理用品が、３０代男女の上位には子供用おむつが入る



		1位	2位	3位	4位
男性	全体	携帯電話充電器	テレビ･ラジオ等の情報機器	防寒具	懐中電灯等の照明器具
	10代	テレビ･ラジオ等の情報機器	携帯電話充電器	懐中電灯等の照明器具	
				防寒具	
				石鹸･歯磨き･洗剤等の衛生用品	
	20代	携帯電話充電器	懐中電灯等の照明器具	テレビ･ラジオ等の情報機器	
				石鹸･歯磨き･洗剤等の衛生用品	
	30代	携帯電話充電器	防寒具	テレビ･ラジオ等の情報機器	タオル類
					紙おむつ(子供用)
	40代	携帯電話充電器	防寒具	テレビ･ラジオ等の情報機器	懐中電灯等の照明器具
	50代	携帯電話充電器	テレビ･ラジオ等の情報機器	防寒具	石鹸･歯磨き･洗剤等の衛生用品
	60代	携帯電話充電器	テレビ･ラジオ等の情報機器	懐中電灯等の照明器具	防寒具
					石鹸･歯磨き･洗剤等の衛生用品
	70代以上	テレビ･ラジオ等の情報機器	携帯電話充電器	懐中電灯等の照明器具	防寒具
女性	全体	携帯電話充電器	テレビ･ラジオ等の情報機器	石鹸･歯磨き･洗剤等の衛生用品	防寒具
	10代	携帯電話充電器	石鹸･歯磨き･洗剤等の衛生用品	下着類	テレビ･ラジオ等の情報機器
					タオル類
					生理用品
	20代	携帯電話充電器	生理用品	防寒具	石鹸･歯磨き･洗剤等の衛生用品
	30代	携帯電話充電器	生理用品	紙おむつ(子供用)	石鹸･歯磨き･洗剤等の衛生用品
	40代	携帯電話充電器	石鹸･歯磨き･洗剤等の衛生用品	生理用品	テレビ･ラジオ等の情報機器
	50代	携帯電話充電器	防寒具	石鹸･歯磨き･洗剤等の衛生用品	テレビ･ラジオ等の情報機器
	60代	携帯電話充電器	テレビ･ラジオ等の情報機器	石鹸･歯磨き･洗剤等の衛生用品	防寒具
	70代以上	携帯電話充電器	テレビ･ラジオ等の情報機器	懐中電灯等の照明器具	石鹸･歯磨き･洗剤等の衛生用品

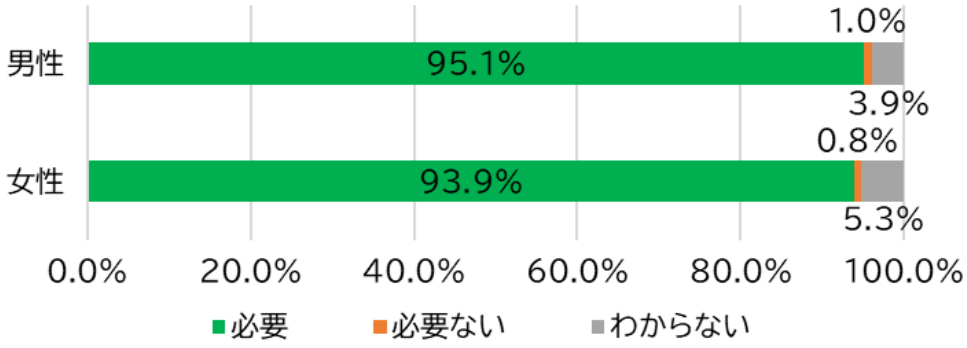
Q13．避難所で生活環境に配慮して欲しいと思うことを選んでください。（３つ選択）

間仕切りによるプライバシー確保が最も多く、次いで男女別仮設トイレの設置、夜でも明るく安全なトイレと周辺環境、男女別の着替えスペースの順に多い



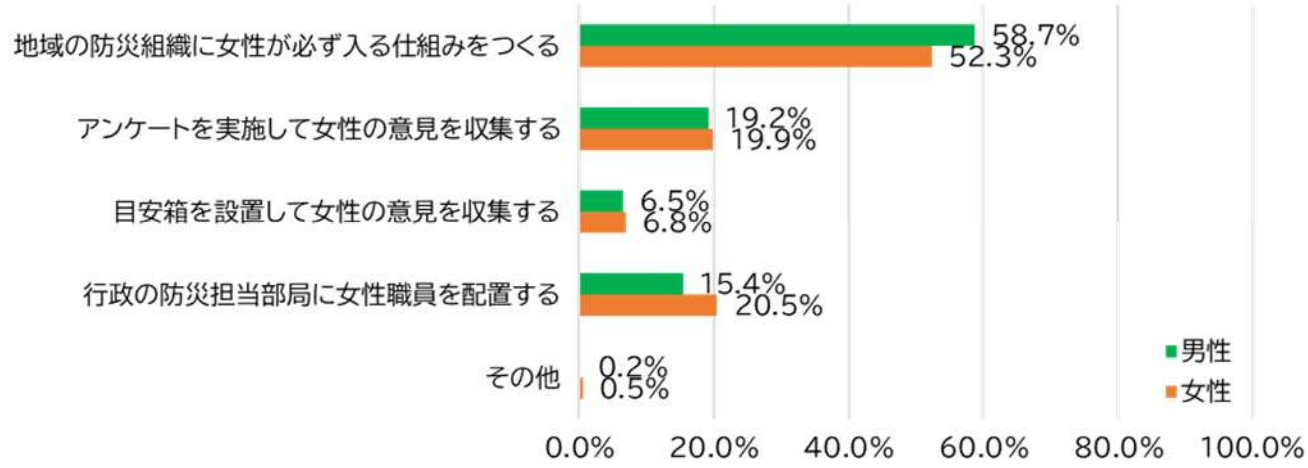
Q14．地域防災に女性の意見を反映させることは必要だと思いますか。（１つ）

男女ともに９割以上が女性の意見を反映させることが必要と回答



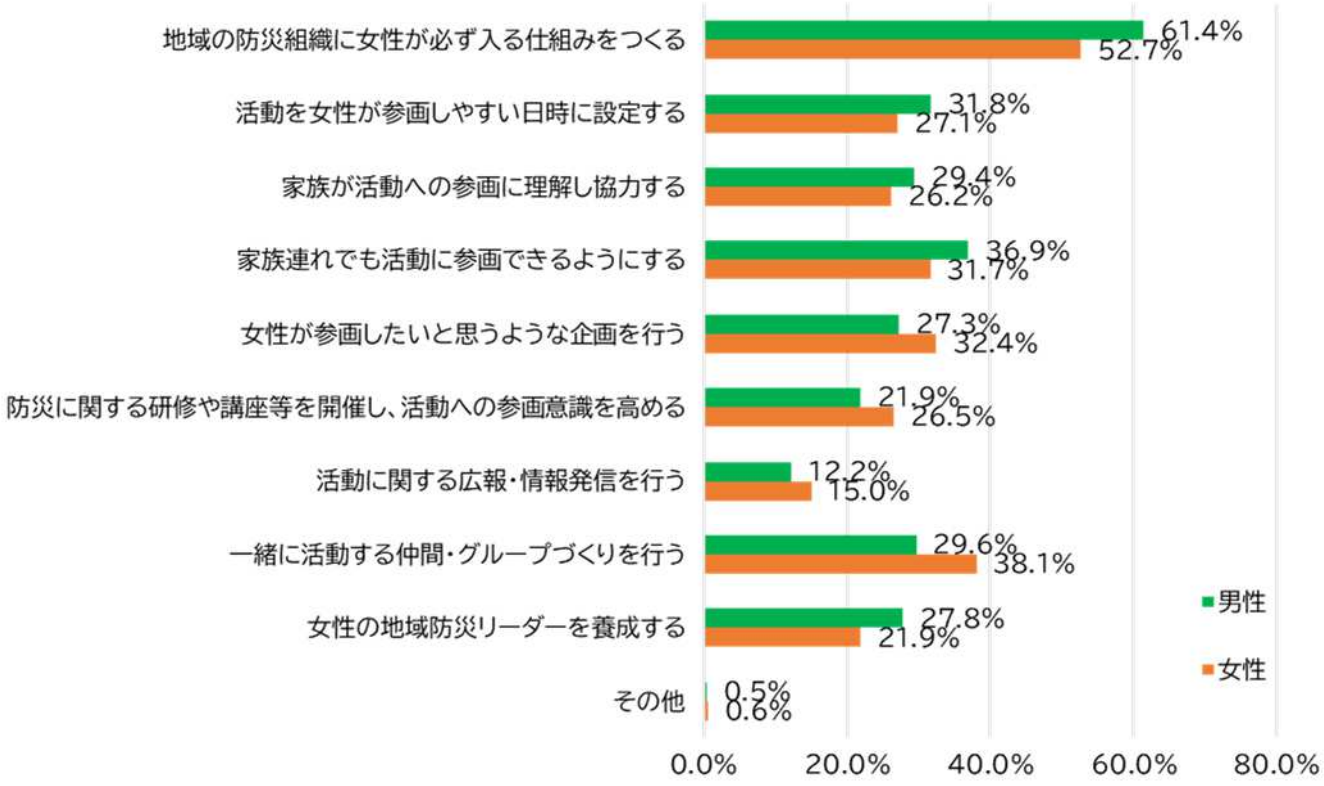
Q15．地域防災に女性の意見を反映させるのに効果的だと思うことを選んでください。（１つ）

地域の防災組織に女性が必ず入る仕組みをつくるが男女とも約５割と最も多く、次いで、アンケートを実施して女性の意見を収集するが多い



Q16．地域防災活動へ女性が参画するために必要だと思うことを選んでください。（３つ選択）

男女ともに地域の防災組織に女性が必ず入る仕組みをつくるが最も多い
次いで、男性は家族連れでも活動に参画できるようにするが多く、女性は一緒に活動する仲間･グループづくりを行うが多い



Q17．防災における女性の参画についてご意見等ございましたら、お書きください。（自由記述）

＜主な意見を掲載＞

- **男女ともその性差（体力･体格など）を理解した上で、おまかせできることはおまかせする、どちらでもできることはやってみるなど、柔軟な考え方が必要ではないか。**
- **女性達の具体的な防災活動を DVD にしてもらい、少しずつ興味がもて、これなら私でもできそうと思ってもらえるとよい。**
- **防災に限らず女性が地域の活動に参画するには家族(夫)の家事育児への平等参加が必要。**
- **女性目線での気づきなどがあるので単位自治会の中で女性リーダーの組織作りができるとよい。**
- **防災＝男性という固定概念が出来上がってしまっている。男性・女性のリーダー２本立てでそれぞれ異性としての意見を平等に反映できるような雰囲気づくりと積み重ねが必要だと思う。**
- **普段の日常生活の中から男女での目線は違う所があると思う。行動の前にまずは見るべき目線の差異をうめていただけたらと思う。**
- **家庭内では気を付けているが地域までは思いが至らない。まずは、だれもが地域のことを考えるという意識改革が必要でその為には啓蒙活動をおこたらないことだと思う。**
- **防災訓練に出て来ない方も多いが、まず近所(お隣)に声をかけ、家の外に出て顔を見せる所からはじめればよい。そのためにも町内での女性の役割はあるのではと思う。**
- **他県の実例で女性がどのような事で困ったり、こういうことをしておけばよかったという講演会を、おいしいスイーツなどを食べながら聞ける場があると参加してみたいと思う！(ZOOM とかで配信や YouTube 等でも OK)**
- **SNS 新聞テレビ等で情報を発信することで女性の考え意見が見えてくるのではないかと思う。また、地域の防災の現状を知ることで女性も参画しやすくなるのでは。**
- **婦人会や地区を通して講演会や講習会をしていくとよいのではと思った。**
- **知識を得る為の研修も必要だが、日頃からの訓練も大切だと思う。家族で参加あるいは女性が主となって体験学習も大切だと思う。**
- **全体的な意見・運営・仕組の中で女性目線という視点からも違った見え方があるので、女性に限らず子供の視点等も反映してほしい。**
- **防災活動するにあたり男女それぞれに適した役割があると思う。適材適所とチームワークが大事。**
- **福井県の町内会は男性主導の傾向が強く働く女性が多いため、町内組織としての婦人会は衰退傾向にある。職場や子育てや趣味を通してのグループ作りを計り、女性の視点からの意見が集約されて役所に届くような環境を作っていくとよいと思う。**
- **災害時の指揮する方がたくさん居てスムーズにいかなかったと聞いた事があり、女性をまじえて話し、サポーター的に身軽に動ける女性を増やしていけると良いと思う。**
- **普段乳幼児と家におり仕事へ復職すると忙しくなかなか情報が入ってこない。福井の女性は共働きも多く特に２０～４０代は子も小さく特別に時間をさいて防災について取り組めるようなことが必要かと思う。また女性参画についての家族会社の理解協力も必要だと思う。**
- **家事育児介護全部やって出かけるのはつらいけど大切な事だと思う。それでも頑張って出た人にはごほうびというか、喜びやはげみになるものをあげてほしい。**

防災における女性の参画に関するアンケート調査

福井市では、男女共同参画社会実現のため、各公民館区に福井市男女共同参画推進員を委嘱し、啓発活動を行っています。 今年度･来年度の活動テーマは、近年、特に女性の参画が求められている防災分野に焦点を当て、『防災における女性の参画推進』としています。

今後の事業をより良いものとするため、防災に対する市民の皆様の意識や考え、地域における実態等についてお伺いしたく、今回、アンケート調査を実施することになりました。

皆様の貴重なご意見をお寄せいただけると幸いです。

お忙しいところ恐縮ですが、ご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

福井市男女共同参画推進員
福井市女性活躍促進課
（TEL 0776-20-5353）

防災に女性の視点を取り入れた事例

事例15	「避難所チェックシート」を活用した 避難所キャラバンの実施	熊本市 男女共同参画センター はあもにい

◆ 取組内容

「男女共同参画の視点からの避難所チェックシート」を活用して避難所の環境を改善

【報告書ダウンロード】
内閣府男女共同参画局HP:
https://www.gender.go.jp/policy/chihou_renkei/torikumi/bousai/41-07-01.html

避難所でのヒアリング

使用した
「避難所チェックシート」

生理用品の配布方法の提案

更衣室や授乳室などの表示を配布して、
扉に掲示していただくよう提案

女性や子供向けの支援物資提供の
呼びかけおよび配布

男女それぞれのトイレに
意見箱「みんなの声」を設置
定期的に回収し改善を求めた

Q1. あなたのお住まいの地区（公民館・小学校区）をお答えください。

（　　）地区　　例：旭地区、社南地区、森田地区、鶉地区、清水西地区など（49 地区）

Q2. あなたの性別をお答えください。

1．女性　　2．男性　　3．回答しない

Q3. あなたの年代をお答えください。

1．10歳代　　2．20歳代　　3．30歳代　　4．40歳代　　5．50歳代

6．60歳代　　7．70歳代以上

Q4. あなた自身を含め同居している家族の中に次に該当する方はいらっしゃいますか。
（あてはまるものすべてに○）

1．乳児・未就園児　　2．保育園・幼稚園児　　3．小学生・中学生　　4．妊産婦

5．介護の必要な方　　6．いずれもいない

Q5. 平日の日中はどこにいらっしゃいますか。

1．だいたい家にいる　　2．居住地区内にいる　　3．仕事や学校等で居住地区外にいる

4．その他（　　）

Q6. お住まいの地区や自治会などで防災に関する団体に所属したことはありますか。

1．所属したことがある　　2．所属したことがない　　3．その他（　　）

Q7. お住まいの地区で災害が起きたとき、避難所運営の中心となる団体はどこだと思いますか。
（あてはまるものすべてに○）

1．自主防災組織　　2．自治会連合会・自治会

3．その他の団体（団体名　　）　　4．わからない

Q8. あなたが参加したことのある訓練や講習会は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1．避難訓練　　2．避難所設営訓練　　3．消火・救出訓練　　4．応急手当訓練

5．炊き出し訓練　　6．防災講習会

7．その他（　　）

Q9. あなたが地区の防災で参画してみたいのはどのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）
また、参画してみたいと思う理由をお聞かせください。

1．避難所の設営に関すること　　2．避難所のルールづくり　　3．消火・救出訓練

4．応急手当訓練　　5．炊き出し訓練　　6．要配慮者に対する支援

7．その他（　　）

参画してみたい理由（　　）

Q10. 地区防災訓練での男性と女性の関わり方について、近いと思うものに○をつけてください。

	男性が主となっている	どちらかと言えば男性が主	男性も女性も関わっている	どちらかと言えば女性が主	女性が主となっている	わからない
1.避難所の設営						
2.避難所の役割分担の決定						
3.避難所のルールづくり						
4.避難者の受付						
5.備蓄品等の配布						
6.消火・救出訓練						
7.応急手当訓練						
8.炊き出し訓練						
9.要配慮者に対する支援						

Q11. 実際に災害が起きたときに理想的だと思う男性と女性の関わり方に○をつけてください。

	男性が主となる	どちらかと言えば男性が主	男性も女性も関わる	どちらかと言えば女性が主	女性が主となる	わからない
1.避難所の設営						
2.避難所の役割分担の決定						
3.避難所のルールづくり						
4.避難者の受付						
5.備蓄品等の配布						
6.消火・救出						
7.応急手当						
8.炊き出し						
9.要配慮者に対する支援						

Q12. あなたが避難所で1週間程度生活する場合、水、非常食、毛布、簡易トイレ以外で、特に必要だと思う「物資」を3つ選んでください。

1．テレビ・ラジオ等の情報機器　2．携帯電話充電器　3．懐中電灯等の照明器具
4．タオル類　5．カセットコンロ　6．食器類（紙皿・ラップ等を含む）　7．ほ乳びん
8．紙おむつ(子供用)　9．紙おむつ(大人用)　10．下着類　11．防寒具　12．消毒液
13．石鹸・歯磨き・洗剤等の衛生用品　14．生理用品　15．スキンケア用品　16．特にない
17. その他（　　）

Q13. 避難所で生活環境に配慮して欲しいと思うことを3つ選んでください。

1．間仕切りによるプライバシーの確保　2．個室などの使用によるプライバシーの確保
3．男女別の着替えスペースの設置　4．男女別の物干し場の設置
5．男女別の仮設トイレの設置　6．授乳室の設置　7．託児スペースの設置
8．相談室の設置（心身の健康相談、育児相談等を受けられる保健師・助産師などの配置）
9．男女別の物資配布　10．男女別の連絡体制　11．出入口の管理や警備
12．夜でも明るく安全なトイレと周辺環境　13．施設内のパトロール　14．特にない
15．その他（　　）

Q14. 地域防災に女性の意見を反映させることは必要だと思いますか。

1．必要　2．必要ない　3．わからない

Q15. 地域防災に女性の意見を反映させるのに効果的だと思うことを1つ選んでください。

1．地域の防災組織に女性が必ず入る仕組みをつくる
2．アンケートを実施して女性の意見を収集する
3．目安箱を設置して女性の意見を収集する
4．行政の防災担当部局に女性職員を配置する
5．その他（　　）

Q16. 地域防災活動へ女性が参画するために必要だと思うことを3つ選んでください。

1．地域の防災組織に女性が必ず入る仕組みをつくる
2．活動を女性が参画しやすい日時に設定する
3．家族が活動への参画に理解し協力する（家事等への協力など）
4．家族連れでも活動に参画できるようにする
5．女性が参画したいと思うような企画を行う（防災教育・ゲーム、防災食・グッズ作りなど）
6．防災に関する研修や講座等を開催し、活動への参画意識を高める
7．活動に関する広報・情報発信を行う
8．一緒に活動する仲間・グループづくりを行う
9．女性の地域防災リーダーを養成する
10．その他（　　）

防災における女性の参画について、ご意見等ございましたら、ご自由にお書きください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

令和5・6年度
福井市男女共同参画推進員　活動報告書

令和７年３月発行

編集　福井市男女共同参画推進員（リーダー推進員）

発行　福井市 総務部 未来づくり推進局 女性活躍促進課
〒910-0858 福井市手寄１丁目 4-1 アオッサ５階
TEL 0776-20-5353